

自己研修に関する考え方

生涯研修制度の研修形態の1つである「自己研修」について、医学、薬学、薬剤師業務関連の雑誌・書籍や e-learning プログラムなどを教材とした薬剤師個人による学習と捉え、「学習時間と付与単位数」「評価」「教材」を中心に、CPC としての考え方を以下に示します。

1. 学習時間と付与単位数

自己研修では、学習時間 240 分につき 1 単位を付与することを標準としています。この学習時間には、学習テーマの選択や教材の選定等の事前準備の時間、学習後の振り返り（リフレクションシートの作成等）の時間も含まれます。学習時間の積算も可能ですが、極端に短い学習時間に対する単位数の設定は避け、少なくとも 15 分以上の学習時間で設定することが望ましいと考えます。学習時間を積算して単位基準を設定する場合は、その根拠となる理由をお示してください。

2. 評価

学習の事前および事後の評価が重要であり、特に学習後の評価として、何をどのように学び、習得した知識やスキルを活かして何ができるようになったのか、どのように日常業務で活用するのかなどを明確にすることが望ましいと考えます。

* 評価方法 *

- ・ 研修成果レポートの提出を必須とする
- ・ 研修成果レポートは以下の記載事項が望ましい
 - ① 学習テーマ
 - ② 学習理由（学習を実施するに至った経緯や背景）
 - ③ 学習目標（その学習で習得したいこと）
 - ④ 教材（使用した書籍やテキスト、視聴したコンテンツなど）
 - ⑤ 学習時間（学習した時間）
 - ⑥ 学習成果（指定する文字数について妥当性を判断のこと）
- ・ e-learning による学習は 1 コンテンツごとに確認テストを実施し、さらに研修成果レポートを提出することが望ましい。
- ・ 研修成果レポートに相当する内容を確認テストの実施で評価可能である場合、確認テストの実施のみでもよいと考える。

3. 教材

薬剤師にとって知識に関する学習は生涯必要であり、習得した知識をどのように活かすかが重要であると考えます。

医学、薬学、薬事もしくは薬剤師業務に関する書籍や e-learning プログラム、研修実施機関が独自に制作したテキスト等を用いて学習した内容について、学習者のスキ

ルアップに繋がるか、情報や知識のアップデートができるかなどの評価基準を設け、適切な教材を選定することが望ましいと考えます。

4. 自己研修で取得した単位の取扱い

薬剤師認定制度における自己研修は、元来、集合研修や実習研修など他の形態で学習できなかったテーマや自身に不足していると思うテーマ等を、e-learning や教材で学習し補うためのものと位置付けています。

自己研修で取得した単位のみを利用して認定申請が可能になることを避けるため、申請に必要な単位数のうち自己研修での取得単位の利用は50%以下にとどめるのが望ましいと考えます。

また、各制度の認定申請で他プロバイダーでの取得単位を大幅に受け入れる場合は、自己研修で取得した単位の取扱いについて改めて検討が必要と考えます。